

単元名 2 新しい視点で 一文法への扉1 言葉のまとまりを考えよう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 「文」「文節」「単語」など、言葉の単位について理解することができる。
(3) 日常書いたり話したりしていることと、ここでの学習を関連付けながら取り組もうとする。

標準的な展開例

10210113_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 言葉の単位として、「文章」「段落」「文」という単位があることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「文法とは」(p. 238)を読み、文法を学習することの意義を知る。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★「文章」「段落」「文」という単位があることを理解しよう。 ○「言葉の区切り方」「言葉を並べる順序」「言葉の形の変化」(p. 238)の左右の文を比べる。 ○教科書下段の「練習問題」(p. 238)に取り組む。 ○「昔話」(p. 59)を声に出して読む。 ○間を取った箇所を確認する。 ○「文章・談話、段落、文」(p. 239～p. 240)を読んで、理解する。 ○教科書下段の「練習問題」(p. 240)に取り組む。 <p>2 文は「文節」、文節は「単語」に分けられ、「単語」は最小単位であることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「昔話」(p. 59)の最初の文が、短い間を取って分けられることを確認する。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★「文節」「単語」について知ろう。 ○「文節」(p. 240)を読み、文節について理解する。 ○教科書下段の「練習問題」(p. 240)に取り組む。 ○「単語」(p. 241)を読み、単語について理解する。 ○教科書下段の「練習問題」(p. 241)に取り組む。 ○「複合語は一つの単語」(p. 241)を読み、複合語について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段何気なく使っている言葉にも決まりがあるので、正しいものを選ぶということを自覚させる。 ・「小学校1年生に聞かせるつもり」という点を強調した上で、速さや間の取り方に気を付けて読むように指示する。 ・「。(句点)」で間を取った生徒もいれば、それより短い間を取って読んだ生徒もいることを確かめる。 ・「文章」はあくまでも、「ひとまとまりの内容」をもち、普通は複数の文から成ることを理解させる。 ・演説、スピーチ、会話などが談話に相当することを、例も挙げて示すとよい。 ・「段落」は文章の中の内容的なまとまりによって分けられていることを確認する。 【評】言葉のまとまりを理解する活動を通して「知識・技能」を評価する。 ・答え合わせをする際は、声を出して確認させる。 ・「文節」をさらに小さく分けた最小単位である一方で、声に出して読むときには、単語まで分けて読むことはないということに注意させる。 ・「④期末テスト」を「期末」「テスト」，「勉強する」を「勉強」「する」のように2単語に分けてしまった場合、複合語について理解させる。 【評】文節、単語に分ける活動を通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

中学校での本格的な国語学習として、このまとまりでは、説明文の読みや記録の仕方の工夫について練習するなどして、説明や記録の基本的な事項について考えていく。現行の学習指導要領の特徴の一つは表現の工夫を読み取ることにあり、そこに焦点化する最初の学習となる。展開の違う二つの文章を読むことを通して、表現の工夫に気付かせたい。

また、好きなものを紹介する活動や情報の集め方を知る活動は、より広く多様なものの見方などに触れることができる。「情報社会を生きる」では、中学校での情報活用能力についての学習の基本として押さえておきたい。